



第3章 「農」のある人間らしい暮らしのできるまちづくり

● M e m b e r

山崎	一	新井市農林課
金井	孝生	牧村産業建設課
加藤	豊	妙高村農林課
井田	義之	清里村産業建設課
羽深	元子	三和村農業委員会
内山	俊洋	能生町総務課



アドバイザー
上越市創造行政研究所
研究員 石黒 厚雄

上越地域の発展を目指して

「農」のある人間らしい暮らしのできるまちづくり

1. 「農」をめぐる社会背景と上越地域の現状

社会背景

農作物の自給率低下
食生活の変化と食料の輸入への依存の結果
日本の食料自給率(加リ-ベ-ス)は40%にまで低下

米政策の弊害
米の生産調整(転作・減反)制度
ガット・ウルグアイラウンド農業合意 による弊害

「食」の安全神話の崩壊
食に関する不祥事等による消費者の不安増大
消費者の嗜好は「安心・安全な農産物」に

農業と環境問題
農業が及ぼす環境汚染と荒廃農地の増加に伴い発生する環境問題

農業・農村文化の形骸化と衰退
農村集落の過疎化による伝統文化や風土の衰退

上越地域の農業構造の特徴

担い手と高齢化
担い手不足 後継者がいない農家 約36%
高齢化の進行 基幹的農業従事者65歳以上 62.2%
女性が支えている 農業就業人口のうち女性約60%
組織化が進まない 生産組織参加率 18.4%

経営形態と生産規模
副業的農家 約60%
小規模経営 経営耕地面積1ha未満農家 56.9%
稲作単一経営 92.4%(新潟県84.8%)
米に依存 農業粗生産額に占める米の割合64%

コシヒカリの状況
コシヒカリに依存 県全体水稲作付面積の85%がコシヒカリ
コシヒカリの上位等級比率
上越は県内3番目(新潟県は全国で10番目)
価格の下落 H2からH13の下落率 約23%

2. 「農」を活かした上越地域の発展に向けた基本的な考え方

生産者と消費者からの視点
生産者の価値観
「より楽に生産でき」「より美味しく」「より高価に売れる」
消費者の価値観
「より安全で」「鮮度が良く」「美味しくて」「安い」

「農」との多様な関わり方からの視点
生業型・・・産業であり職業としての「農」
副業型・・・職業(サイドビジネス)としての「農」
「農」体験型・・・ゆとり・やすらぎ体験の「農」
「農」家庭菜園型・・・家庭等でお手軽体験の「農」

生産・流通・消費・廃棄のサイクルからの視点
「農」が本来もっている自然循環機能を重視し、環境と調和した持続性のある農業

「農」がもつ多面的機能からの視点
食料の安定確保・・・人間の生命を支える
農村の経済基盤・・・雇用・人口の維持
伝統継承・・・芸能・祭・技術の継承
国土保全・・・洪水・地すべり防止
水源涵養・・・水田は自然のダム
自然環境保全・・・資源の循環
良好な景観の形成・・・心豊かな人間形成
保健休養機能・・・潤い・安らぎ

これからの「農」を考えるための基本的視点

目指すべき「農」のあるまちの姿

【視点】 生産者と消費者 資源循環 多様な関わり方 多面的機能

【「農」の役割】 経済基盤 環境保全 心の豊かさ

【理想像】 「農」のある人間らしい暮らしのできるまち

【目標】 上越地域の発展

実現のためのまちづくりの戦略

農産物「上越ブランド」の確立 上越地域版循環型農業システムの確立

経営体の育成 地産地消の推進と地域の健康づくり

「農」の多面的機能を活かしたまちづくり

3. 「農」のある人間らしい暮らしのできるまちづくりへ向けた提言

農産物「上越ブランド」の確立

有機農産物生産のまちづくり
・上越地域構成市町村での有機農産物生産にかかる条例化
・有機農産物の生産方法の確立と普及
・徹底した生産出荷管理と品質管理体制の確立及び情報の公開
・独自の販売ルートの開拓

上越地域版循環型農業システムの確立

環境に配慮した耕畜連携体制の構築
・家畜糞尿の一括処理施設の建設

経営体の育成

統一的な意識・指導による経営体の育成と女性起業の推進
・統一的な意識に基づいた生産及び経営指導
・女性の起業に対する支援及び育成
・教育の場での「農」の普及啓発

地産地消の推進と地域の健康づくり

地産地消の推進による地域の健康づくり
・直売所の設置と学校給食への農産物供給
・老人福祉施設との連携による農産物供給
・農家レストランや農家民宿への農産物供給

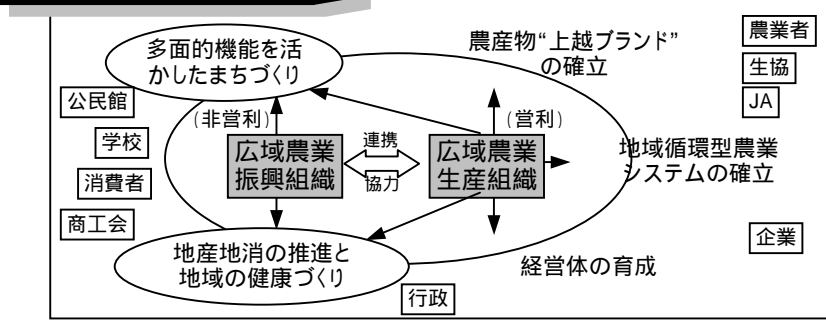
「農」の多面的機能を活かしたまちづくり

「農」が担う国土保全と環境保全
・上越地域直接支払い制度の創設
・耕作補助を担うNPO、地域ボランティア組織の育成

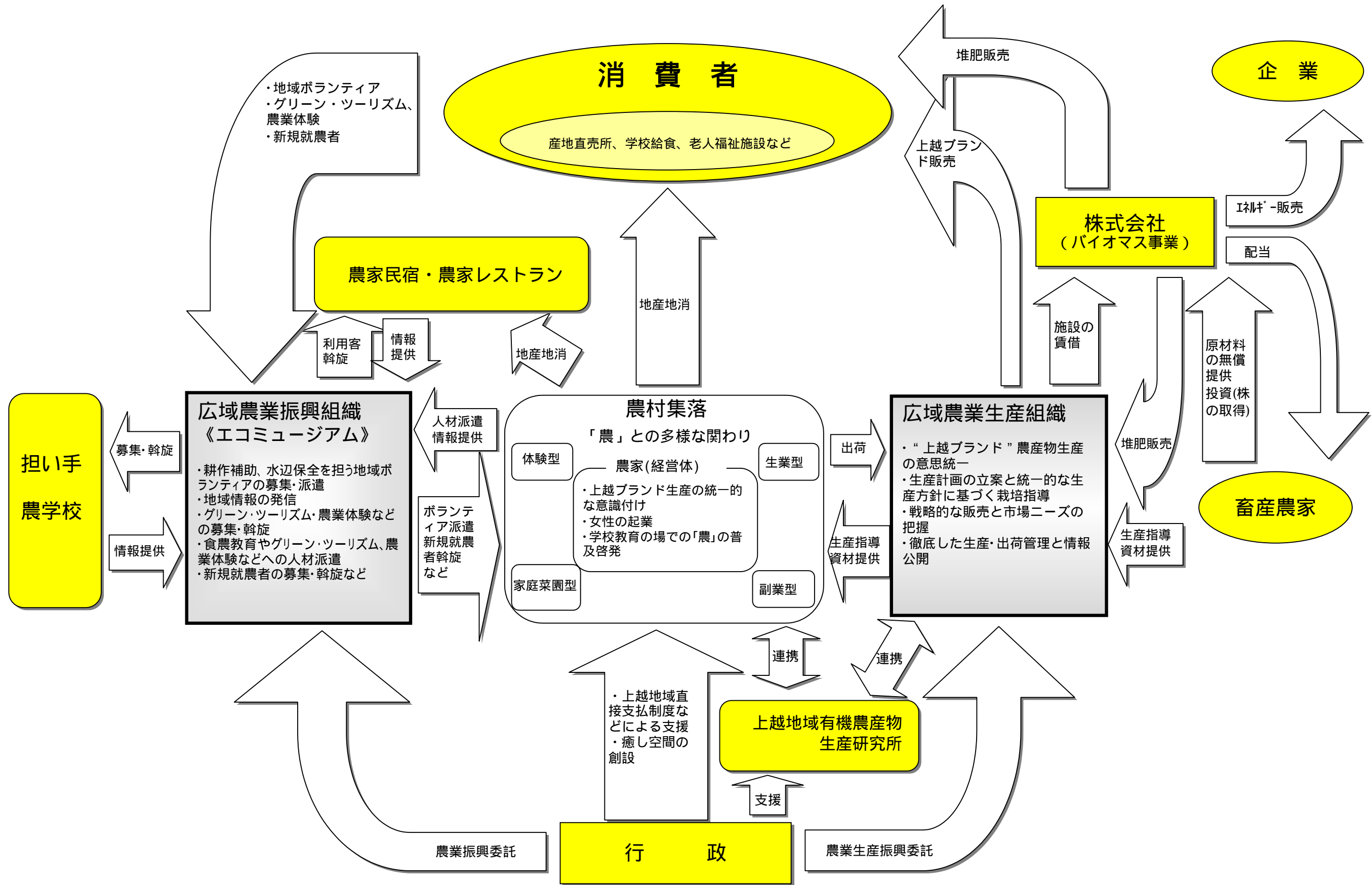
「農」が担う生態系の保持と癒し空間の創設
・ホタル等水生小動物の生息環境を整える
・地域の自然特性を活かした地域づくり

田園環境を活かした新たな産業の創造
・グリーン・ツーリズムの立上げ
・都市との交流事業の推進

4. まとめと今後の課題



“「農」のある人間らしい暮らしのできるまちづくり”イメージ図



目 次

1	「農」をめぐる社会背景と上越地域の現状	- 123
1 - 1	「農」をめぐる社会背景	- 123
1 - 1 - 1	農産物の自給率低下	- 123
1 - 1 - 2	米政策の弊害	- 125
1 - 1 - 3	「食」の安全神話の崩壊	- 127
1 - 1 - 4	農業と環境問題	- 127
1 - 1 - 5	農業・農村文化の形骸化と衰退	- 127
1 - 2	上越地域の農業構造の特徴	- 129
1 - 2 - 1	担い手と高齢化	- 129
1 - 2 - 2	経営形態と生産規模	- 135
1 - 2 - 3	コシヒカリの状況	- 140
2	「農」を活かした上越地域の発展に向けた基本的な考え方	- 144
2 - 1	これからの「農」を考えるための基本的視点	- 144
2 - 1 - 1	生産者と消費者からの視点	- 144
2 - 1 - 2	「農」との多様な関わり方からの視点	- 144
2 - 1 - 3	生産・流通・消費・廃棄のサイクルからの視点	- 148
2 - 1 - 4	「農」がもつ多面的機能からの視点	- 148
2 - 2	目指すべき「農」のあるまちの姿	- 150
2 - 2 - 1	目指すべきまちの姿	- 150
2 - 2 - 2	実現のためのまちづくりの戦略	- 153
3	「農」のある人間らしい暮らしのできるまちづくりへ向けた提言	- 154
3 - 1	農産物“上越ブランド”の確立	- 154
3 - 2	上越地域版循環型農業システムの確立	- 155
3 - 3	経営体の育成	- 156
3 - 4	地産地消の推進と地域の健康づくり	- 157
3 - 5	「農」の多面的機能を活かしたまちづくり	- 158
3 - 5 - 1	「農」が担う国土保全と環境保全	- 158
3 - 5 - 2	「農」が担う生態系の保持と癒し空間の創設	- 160
3 - 5 - 3	田園環境を活かした新たな産業の創造	- 163
4	まとめと今後の課題	- 165